

論文審査結果の要旨

論文提出者	(氏名) 宮園祥爾
論文審査委員	主査 畠山雄次 印
	副査 古村南夫 印
	副査 岡部幸司 印
論文題目	The reduced susceptibility of mouse keratinocytes to retinoic acid may be involved in the keratinization of oral and esophageal mucosal epithelium
(論文審査結果の要旨)	
<p>令和2年2月5日第539回研究科委員会にて受理された本学申請論文について、令和2年2月20日に公開予備審査会を実施した。本論文は動物種によるケラチノサイトの角化機序の違いを各動物種由来上皮細胞の三次元培養をおこない、血清中のレチノイン酸濃度および各細胞のレチノイン酸受容体に着目して検討をおこなっている。その結果、ブタ歯槽粘膜上皮由来の上皮細胞は生体において非角化重層扁平上皮であるが、非血清培地において角化能を示した。また all-trans retinoic acid (atRA) 添加により、角化が抑制された。またヒトおよびマウス表皮由来上皮細胞もブタ同様に角化が抑制された。マウス表皮由来上皮細胞における at RA 添加による角化抑制はレチノイン酸受容体阻害剤の添加により角化が回復するとともに、角化マーカーであるロリクリンの発現が回復した。さらに at RA はタイト結合膜タンパク claudin-1 (CLDN1) の発現減少、CLDN4 および CLDN7 の発現を亢進した。また細胞間電気抵抗値が低下した。</p> <p>本研究は、ブタ歯槽粘膜由来非角化上皮由来細胞の非血清培地における動態、レチノイン酸の角化に与える影響をタイト結合膜タンパクであるクローディンに着目した点で大変有意義な研究であるが、公開予備審査会において論文審査委員よりいくつかの質疑があった。そこで令和2年2月27日に論文審査委員により追加審査を実施した。追加審査において質疑に対する的確な回答および実験結果を示し、これらの審査により、申請者が明確な研究の背景および目的を有し、適切な実験方法により得られた結果を十分に考察していることを確認した。さらに主査および副査からの質疑に適切に回答し、本学位申請がすべての学位審査基準に達しているとの結論に達した。</p> <p>以上により、本論文は学位論文として適格であり、予備審査を合格と判定した。</p>	